

令和元年度 学力向上プラン

学校名 中央区立京橋築地小学校

学校の教育目標

・よく考える子 ・思いやりのある子 ・たくましい子

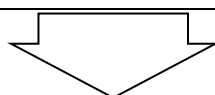
学校経営方針（確かな学力向上にかかわる内容）

学習指導要領の趣旨及び内容を踏まえ、「楽しい授業」づくりを目指し、一人一人の特性を捉えたきめ細かい指導の工夫を行う。教員が「子どもの側に立った指導」ができるよう、学習指導の方法や工夫、日々の授業について常に研鑽・評価し合っていく。

平成30年度「学習力サポートテスト」「東京都学力向上を図るための調査」「全国学力・学習状況調査」の結果分析や、日常の学習の様子等から見られる課題及び要因

	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国 語	「学習力サポートテスト」において、「書く」の正答率が全国平均を3ポイントほど下回る結果となった。筋道立てて自分の考えや感じたことを書くこと、既習の漢字の定着に課題が見られる。また、自分の考えを整理し、一定量の文章を書くことにも課題が見られる。	書く活動において、自分の考えを整理し、組み立てていく経験が不足していると考えられる。
算 数	「東京都学力向上を図るための調査」において、「考え方」の正答率が43.8%であった。計算は正しくできるが、資料を読み取り、演算決定をして答えを導くことに課題がある。	筋道立てて考える力、考え方を表現する力ともに個人差が大きい。公式の適用や演算はできるが、公式等のもつ意味の理解が不十分であることが考えられる。
社 会	「学習力サポートテスト」において、「思考・判断・表現」の正答率が全国平均を下回っている。知識は定着してきているが、それを活用する力に課題がある。	児童自らが問題を追究し解決する学習に加え、それを表現する学習経験がまだ不足している。
理 科	「東京都学力向上を図るための調査」や「学習力サポートテスト」において、「技能」「知識・理解」の正答率が区、及び全国平均を5ポイント以上下回る。観察や実験には意欲的に取り組んでいるが、知識としての定着に課題が見られる。	学んだことを日常生活に当てはめ、活用する経験の不足が考えられる。また、既習事項について振り返る機会が不十分であることも考えられる。
体 育	平成29年度のスポーツテストの結果では、50m走や20mシャトルランにおいて数値の高い学年が多いが、男子は上体起こし、女子はソフトボール投げにおいて全国平均を下回る学年が多い。	住居周辺に体を動かせる場所や施設が限られているため、多様な動きを経験する機会が少ない。また、スポーツ団体への所属の有無等による個人差や、取り組む種目が特化していることも要因として考えられる。

学力向上に向けた視点	年度末までの目標及び指標
① 学力基盤	・ 基礎的・基本的な学習内容の確実な定着と、思考力、表現力の伸長を図り、東京ベーシック・ドリル等における正答率を80%以上にする。
②授業改善	・ 分かりやすく、確実に学力を定着させる授業をめざし、学校評価の児童・保護者アンケートの授業に関する項目で、肯定的評価を90%以上にする。
③教員の指導力	・ 研究授業の実施、校内OJT組織体制を生かした研修の場を学期ごとに設定するなど、教員同士とともに学び合い指導力の向上を図り、授業の質を向上させる。
④家庭との連携	・ 家庭との連携のもと、学年×10分の家庭学習の習慣を身に付けさせる。
⑤体力向上	・ 持久走、および泳力において、学年に応じて設定する数値目標の達成率を80%以上にする。



【目標達成のための具体的な取組内容】

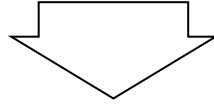
①学力基盤	
取組Ⅰ	・ 表現力、判断力、思考力を育成するために、個の学びの場、学び合いの活動の場を適切に授業に設定する。
取組Ⅱ	・ 基礎的・基本的な知識及び技能の習得・定着を図るために、個に応じて授業のほか、朝学習の時間などで、個に応じて東京ベーシック・ドリル等を活用した既習事項の反復、立ち戻る学習を行う。
取組Ⅲ	・ 算数科における基礎・基本の確実な習得のために、夏休みや放課後に補習教室を実施し、個に応じた指導の充実を図る。

②授業改善	
取組Ⅰ	・ 読書活動、文章を読み取る学習活動のほか、考えたことを文章にまとめる活動の充実を図り、読む力と書く力を育成する等、言語活動の充実を図る。
取組Ⅱ	・ 理科や社会科等、問題解決の学習過程に沿った授業の展開を工夫するとともに、学習内容と実生活との関連を図り、思考力を伸長し、実感を伴った学習内容の理解ができるようにする。
取組Ⅲ	・ タブレットPC等ICT機器を活用し、算数的活動や、自分の考えを言葉や図、式で表現する活動を工夫し、数学的な思考力を育てる。

③教員の指導力	
取組Ⅰ	・校内研究会において全学年で1回ずつ算数科の研究授業を行い、児童が主体的に考え、児童の思考力、表現力を伸長する授業づくりに取り組む。
取組Ⅱ	・各教員の専門性を学び合う、校内OJT研修会を年間を通して計画的に実施する。

④家庭との連携	
取組Ⅰ	・学年×10分間の家庭学習が習慣として身に付くように、保護者会や個人面談などを通して保護者との共通理解を図るとともに、適切な家庭学習の課題を日常的、計画的に出し、児童に取り組ませる。
取組Ⅱ	・個人面談や通知表などを通して、学力調査の結果や日常の学習活動への取組などについて、児童の個々の状況を適切に保護者へ伝えるとともに、よりよい成長のための手だてについて共通理解を図る。
取組Ⅲ	・読解力の向上を図るため、親子で読書期間を設けることを奨励する。

⑤体力向上	
取組Ⅰ	・学年ごとの達成目標を設定し、6年間を見通して、個々の泳力に応じた水泳指導の充実を図る。
取組Ⅱ	・持久走カードの活用や、持久走重点週間の設定、体育の授業に継続的に持久力を高める運動を取り入れることで、児童の意欲と体力の向上を図る。



学力向上に向けた視点	取組の成果	取組の課題
① 学力基盤	基礎的・基本的な知識及び技能の習得・定着を図るために、授業のほか、各学年で年４回の放課後の補習教室を実施した。東京ベーシック・ドリル診断テストの結果は各学年概ね７０～８０％を達成した。	東京ベーシック・ドリルを活用し、既習事項の反復学習を行う。診断テストの結果を基に、弱点を中心に基礎学力の向上を図る。
② 授業改善	学校評価児童アンケートの「授業の内容がよくわかりますか」の項目で「よくわかる」「わかる」の合計が９６％となった。	算数的活動や、自分の考えを言葉や図、式で表現する活動を取り入れるなど、数学的な思考力を育てる授業を継続する。対話を重視し、児童同士が学び合える学習活動の充実を図る。
③ 教員の指導力	全学年において年１回の研究授業を実施した。また、校内ＯＪＴとして指導力向上の研修会を年４回以上実施した。	日常的に教員相互が授業を観察したり、放課後の時間にＯＪＴを行ったりするなど、日頃からＯＪＴが活性化できるようにする。
④ 家庭との連携	学年×１０分の家庭学習の習慣を身に付けさせるために、保護者会等で周知し、理解と協力を促した。	学年×１０分の家庭学習の習慣を確実に身に付けさせるために、家庭への継続したアナウンスや、家庭における取り組み状況の把握を進める。
⑤ その他	持久走、及び泳力において、各学年の数値目標の達成率が、目標値である８０％に概ね到達した。	日常の体育の授業に持久走を意識した体づくりの運動を取り入れるなど、児童が丈夫な体をつくるために、継続して意欲的に取り組める活動の場を設ける。